

# ウォーゲーム（図上演習）の歴史

## ：クラウゼヴィッツ、H.G.ウェルズからオバマ大統領まで

2010.02.06 蔵原大（軍事問題研究会研究委員、[kuraharad@gmail.com](mailto:kuraharad@gmail.com)）

．公共の世界に溢れるウォーゲーム（図上演習）〔注意：下記は全て無料サービスです〕

- \* 国連 WFP 「FOOD FORCE」 (<http://www.foodforce.konami.jp/>)
- \* アメリカ陸軍 「America's Army」 (<http://www.americasarmy.com/>)
- \* 中国共産青年同盟（後援）「《抗战》官方网站」（抗日戦オンラインゲーム） (<http://kz.zqgame.com/>)

### 設 問

いつ頃から、そしてなぜ、戦争や紛争を題材にしたゲームが登場したのだろうか？

．プロイセン（ドイツ）から全世界へ、軍事の専門教育用から汎用へ

- \* **19世紀初め 門閥主義はもうやめだ！**：弱国プロイセンの生き残りを賭けた軍事改革の数々  
参謀本部、クラウゼヴィッツ『戦争論』、「クリークシュピール」(Kriegsspiel)
- \* **20世紀初め 歴史を題材にした知性の闘いは面白い**：H・G・ウェルズ『リトルウォーズ』(Little Wars, 1913) ジェームズ・F・ダニガン『ウォーゲームズ・ハンドブック』 (<http://www.hv.com/Books/WargamesHandbook/Contents.htm>)
- \* **21世紀初め 知識偏重主義から再び能力主義へ**：「線形」から「非線形」の社会モデルへ\*1、2009年の「ホワイトハウス・ウォーゲーム」とオバマ政権の「初仕事」\*2。

### 設 問

なぜクリークシュピール（ウォーゲーム）は近代軍の教育システムに組み込まれたのか？  
ウォーゲームの「楽しみ」とはつまるところ、何を指すのだろうか？

．公共的ウォーゲーム（シリアスゲーム）の目的別分類

- \* **訓練／教育**：フィリップ・セイビン (Philip Sabin) の戦略学講義 (<http://www.kcl.ac.uk/schools/sspp/ws/people/academic/professors/sabin/conflictsimulation.html>)
- \* **実験／分析**：国際関係シミュレーション（模擬演習） ([http://www.keidanren.or.jp/21ppi/activity/symposium/091121\\_01.html](http://www.keidanren.or.jp/21ppi/activity/symposium/091121_01.html))
- \* **広報／世論操作**：財務省の「財務大臣になって予算を作ろう！」 (<http://www.mof.go.jp/zaisei/ga.me.html>)

### 設 問

公的資金で作られるゲームはどのような理由付けによって正当化されるのだろうか？

【まとめ】いわゆる「ブラックプロパガンダ」\*3としてのウォーゲーム＝メディアの勃興

**公共的ゲームは「他の手段をもってする政治の継続に他ならない」**\*4。クラウゼヴィッツの「奇妙な三位一体」（理性、感情、偶然性）の観点\*5、「ゲーム＝メディア・リテラシー」の必要性。

\*1 猪口孝・田中明彦・恒川恵市・薬師寺泰蔵・山内昌之共編『国際政治事典』弘文堂、2005年、856頁。

\*2 "January 13, 2009. White House holding war games." NECN. (<http://www.necn.com/Boston/Politics/2009/01/13/White-House-holding-war-games-1231861526.html>)

\*3 山本武利『ブラック・プロパガンダ—謀略のラジオ』岩波書店、2002年、23～24頁。

\*4 クラウゼヴィッツ著、清水多吉訳『戦争論（上）』中央公論新社、2001年、63頁。

\*5 Refer to Beatrice Heuser, *Reading Clausewitz* (Random House UK, 2002), pp.52-6.